

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方針	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイントを表す	学校関係者の意見		
中高一貫教育の推進	<p>(全校レベル) 中高それぞれが相乗効果を生み出し、本校の活性化に役立てる。</p> <p>(下位組織レベル) 中学生と高校生の関係は良好である。</p>	<p>評価指標</p> <p>「中高それぞれが相乗効果を生み出し本校の活性化に役立っている」と答えた生徒・保護者・教職員が50%以上。</p> <p>「中学生と高校生の関係は良好である」と答えた生徒が50%以上。</p> <p>活動計画</p> <p>①吉野川堤防清掃作業を中高合同で実施する。 ②城ノ内祭を中高合同で開催する。 ③一部の部活動で中高合同の練習を行う。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>「中高それぞれが相乗効果を生み出し、本校の活性化に役立っている」と答えた生徒28%(+1p)、保護者73%(+10p)、教職員36%(+7p)</p> <p>「中学生と高校生の関係は良好である」と答えた生徒42%(-2p)</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①吉野川堤防清掃作業を中高合同で3回実施した。 ②文化祭、体育祭を中高合同で開催した。 ③美術部や弓道部など12部で合同練習を行った。</p>	<p>総合評価</p> <p>C</p> <p>(所見) 生徒、教職員とも非常に厳しい評価となった。教職員には、中高一貫教育への熱い思いがあり、今以上に良くしたいとの強い意思の表れと捉えている。生徒については、今の合同行事が実質的な交流となっておらず、中学生との一体感が持てていないことがこうした結果に表れたと分析している。</p>	<p>①現状の中高一貫教育を、保護者は高く評価しているが、推進する立場の教職員が厳しい目で見、改革・改善への意識や意欲を強く持ち教育活動に臨む姿勢はとて大切で良いことである。この思いを是非とも形あるものにしてほしい。</p> <p>②生徒及び教職員の相互交流を今まで以上に推進し、活性化につなげてほしい。</p>	<p>①全教職員が中高一貫教育のあり方や活性化について議論し、共通理解を図る機会をさらに多く設ける。</p> <p>②中学生とのコミュニケーションや共通体験の機会を増やし人間的触れ合いを深める。</p> <p>③中学と高校の教職員間で、今以上に親近感や連帯感、相互理解が深まるよう、授業、行事などで積極的に交流を進める。</p>
確かな学力と進路観の育成	<p>(全校レベル) 授業の充実改善に積極的に取り組み、きめ細かな進路指導を行う。</p> <p>(下位組織レベル) 研究授業・授業研究会の実施。 進路別集会や学年集会の実施。 進路相談体制の確立。</p>	<p>評価指標</p> <p>「教員は学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。</p> <p>「教職員はわかる授業を目指して授業を工夫している」と答えた教職員が70%以上。</p> <p>「生徒の希望を尊重したきめ細かな進路指導ができています」と答えた生徒・保護者が70%以上。</p> <p>「先生は生徒の進路相談や悩みについてよく相談にのってくれる」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。</p> <p>活動計画</p> <p>①研究授業・授業研究会を中高合同で実施する。 ②授業評価を年2回実施する。 ③進路に関する学年集会や講演会、及び大学講師等による出張講義を実施する。 ④学習実態調査と進路希望調査を実施する。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>「教員は学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒80%(±0p)、保護者81%(-8p)、教職員93%(-1p)</p> <p>「授業の充実・改善に積極的に取り組んでいる」と答えた教職員100%(+4%)</p> <p>「生徒の希望を尊重したきめ細かな進路指導ができています」と答えた生徒70%(-3p)、保護者75%(+3p)</p> <p>「先生は生徒の進路相談や悩みについてよく相談にのってくれる」と答えた生徒70%(-2p)、保護者73%(-8p)、教職員84%(-3p)</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①中高合同での研究授業・授業研究会を年10回実施した。また10月には、校種を越えて授業参観する機会を設けた。 ②授業評価を2回実施した。 ③計画的に学年集会や講演会等実施した。 ・学年集会(1年7回、2年10回、3年8回) ・進路講演会(1年3回、2年3回、3年1回) ・出張講義(1年2時間、2年2時間) ④学習実態調査(1年11回、2年9回、3年7回)及び、進路希望調査(1年3回、2年4回、3年2回)実施した。</p>	<p>A</p> <p>(所見) 「伸ばす教育」及び「進路相談」の項目で、保護者の割合の下降が目立つが、すべての項目において評価指数を上回っており、一定の評価はできる。授業に関しては、実施する教職員の割合が高いのはもちろんであるが、生徒、保護者も高い評価をしている。進路指導に関しては、教職員の自己評価に比べ、生徒、保護者の評価はやや低い。進路学年集会や講演会など一斉指導はかなり充実しているが、個別相談の機会不足がこうした結果に至ったと分析している。</p>	<p>①すべての教職員が「授業の充実・改善に積極的に取り組んでいる」と答えており、今後ともこの気持ちを大切に「わかる授業」を目指して頑張してほしい。</p> <p>②他人の授業を見ることは、指導力の向上・改善につながるため、一層推進してほしい。</p>	<p>①年2回実施する生徒による教員授業評価や、外部講師を招いての中高合同研究授業及び教員同士の参観授業等を通じて、指導力の改善・向上に取り組む。</p> <p>②学力向上の基本となる生活習慣の確立と進路意識の高揚を図るため、定期的な実施している学習実態調査と進路希望調査であるが、データ結果の有効有益な活用方法について検討を加える。</p> <p>③担任との個別面談の機会の増加、進路指導課に相談室の設置など、相談機能の充実に向けてできることから取り組む。</p>

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価指標 * () は昨年度との比較で、増減ポイントを表す	学校関係者の意見	
人権教育の推進	(全校レベル) すべての教育活動で人権教育の推進を図る。	評価指標 「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒67% (+5p), 保護者83% (-9p), 教職員90% (+2%)	総合評価 B (所見) 評価指数、及び活動計画はほぼ達成されている。全校レベルの評価では、教師と生徒との間に大きな差が見られ、指導における教師の思いや意図が生徒に十分伝わっていないことが考えられる。下位組織レベルの問いは、生徒の言動等に教員の指導の成果が表れているかを測るものとなるが、教員の自己評価も、評価指数は上回ったものの、決して高いとは言えない。	①情報過多の時代なので、その中から正しい情報を見極める力や、論理的に思考し判断する力が身につくような指導をお願いしたい。 ②子どもの考え方や判断は、最後は親に依るところが大きいので、学校での人権学習を家庭でも話し合ってもらえるような工夫や、PTAが主体となつての保護者への人権教育・啓発に取り組んでみてはどうか。
	(下位組織レベル) ホームルーム活動や学校行事の充実を図る。	「生徒は自他を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	「生徒は自他を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒71%, 保護者82%, 教職員73%		
基本的な生活習慣の確立と道徳性の涵養	(全校レベル) 学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立を図る。	評価指標 「学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者73% (-1p), 教職員83% (+12p)	総合評価 B (所見) 全校レベルでは、保護者、教職員共に評価指数を上回った。また下位組織レベルでも、大幅に向上した項目も多く、重点的に指導した成果が現われたと考えている。また一方で、どの項目においても、保護者、教職員と比べて、生徒による生徒の評価は厳しく、複数の項目で評価指数を下回った。生徒の実態をより正確に表すのは生徒の数値と思われるので、規範意識の低い生徒には、厳しい指導とともに、規範意識を高め自ら律することのできる生徒へと変容させる必要がある。	①挨拶も非常によくなるなど基本的な生活習慣全般において、かなりの向上・改善が見られる。今後とも、自律心の高い生徒の育成を目指しきめ細やかな指導を継続してほしい。 ②他と比較すると、「自転車の整頓」の達成度が低いので、次年度は特に力を入れてほしい。そうすることで、他の項目もつられて自然上昇すると思う。
	(下位組織レベル) 「挨拶の励行」の徹底。 「自転車の整頓」の徹底。 「時間厳守」の徹底。 「服装頭髪」指導の徹底。	「挨拶の励行ができています」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 「自転車の整頓ができています」と答えた生徒・教職員が70%以上。 「時間厳守ができています」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 「服装頭髪が守られている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	「挨拶の励行ができています」と答えた生徒68% (+7p), 保護者83% (-4p), 教職員70% (+9p) 「自転車の整頓ができています」と答えた生徒65% (+23p), 教職員68% (+12p) 「時間厳守ができています」と答えた生徒71% (±0p), 保護者87% (-3p), 教職員88% (+7p) 「服装頭髪が守られている」と答えた生徒66% (+13p), 保護者87% (+6p), 教職員78% (+13p)		
	活動計画	活動計画の実施状況			

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 * () は昨年度との比較で、増減ポイントを表す	学校関係者の意見		
特別活動の活性化	(全校レベル) 学校行事を充実させ、学校全体を活性化する。 (下位組織レベル) 部活動を活発にする。 部活動と勉強の両立を図る。	評価指標 「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 「部活動は活発である」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 「部活動と勉強の両立を図ろうとしている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 活動計画 ①部活動を活性化する。 ②生徒会活動を活性化させる。	評価指標による達成度 「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒84%(+3p), 保護者92%(-1p), 教職員93%(+12p) 「部活動は活発である」と答えた生徒88%(+2p), 保護者93%(+3p), 競職員75%(-2p) 「部活動と勉強の両立を図ろうとしている」と答えた生徒83%(+3p), 保護者84%(+5p), 教職員85%(+10p) 活動計画の実施状況 ①部活動加入率は4年90%, 5年80%, 6年82%[4月末現在] ②「生徒会は活発に活動している」と答えた生徒61%(-8p), 教職員80%(-10p)	総合評価 A (所見) ほとんどの項目で、昨年度同様、非常に高いレベルで評価指数を上回った。学校行事は生徒会を中心に自主的・自律的に運営され成果も上がった。部活動は活発で、文武両道が実践できていることを数値が物語る。入賞数も多く、登山、弓道、マーチングなどいくつかの部が全国大会に出場を果たした。	①ヨット研修、ゴルフ研修など本校ならではの特色ある学校行事もあり、全般に満足度も非常に高いが、形骸化しないよう、今後とも内容の充実には十分努めてほしい。 ②部活動の入部率も高く、進学実績を見ても、文武両道でよく頑張っている。また、団体での全国大会出場は高く評価できる。	①ホームルーム委員の活動内容を整理し、各委員が目的意識と責任感を持ち、自主的・自発的に活動できるように環境を整える。 ②生徒会は、自分たちのものであるとの意識を高め、執行部に参加する生徒を増やす。 ③部活動において、中高併設のメリットを活かし、中学3年生とスムーズな連携を図り、活性化に努める。
	環境教育の推進と防災・安全教育の徹底	(全校レベル) 清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている。 (下位組織レベル) ゴミの分別や節電・節水に取り組む。 防災意識の高揚に努め、防災への取組を推進する。 交通ルールや交通マナーを守る。	評価指標 「清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている」と答えた生徒・教職員が70%以上。 「ゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒・教職員が70%以上。 「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 「交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生徒・教職員が70%以上。 活動計画 ①吉野川堤防清掃活動や学校周辺清掃活動に年3回以上取り組む。 ②防災避難訓練(火災・地震・津波)を年2回実施する。 ③毎月1回交通マナーアップ運動を行う。 ④交通安全教室を年1回実施する。	評価指標による達成度 「清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている」と答えた生徒64%(-6p), 教職員83%(+25p) 「ゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒62%(-3p), 教職員78%(+26p) 「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒63%, 保護者74%, 教職員73%。 「交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生徒45%(+22p), 教職員63%(+36p) 活動計画の実施状況 ①吉野川堤防清掃活動を、中高合同で3回実施した。(7月、10月、12月) ②防災避難訓練(地震・津波、火災)を2回、Jアラートによる初期避難訓練を2回実施した。 ③毎月1回、生活委員と教員による、自転車通学生の交通マナーアップ運動を展開した。また警察と連携し、交通安全キャンペーンを行った。 ④外部講師による交通安全教室を実施した。	総合評価 B (所見) どの項目を見ても、教職員の割合は昨年度と比較して大幅に上昇した。一方、生徒の割合は、教職員と比べて軒並み低く、また低水準に留まった。交通ルール・マナーの遵守については、今年度、特に力をいれて取り組んだ結果、飛躍的な向上が見られたが、依然として達成度は高くはない。防災に関しては、避難訓練の回数増、防災体験の取り入れ、また施設・設備の充実・強化や備品等の整備でも大きく前進したが、生徒、教職員の危機意識はまだまだ低く、防災に対する最初の評価としては、やや厳しいと受け止めている。	①交通ルールの遵守は、他人の命はもちろん、自分の命を守るためにも行うものであることが十分理解できておらず、繰り返し指導を徹底する必要がある。 ②自転車に乗る自分が、被害者ではなく、加害者となり刑事責任や賠償責任を負わなければならないことがあることを、事例を通して十分指導しておく必要がある。 ③南海トラフを震源とする巨大地震の発生が危惧されており、危機意識の高揚も含め防災教育にしっかりと取り組んでほしい。

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価指標による達成度 評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイントを表す	学校関係者の意見		
開かれた学校づくりの推進	(全校レベル) ホームページの充実や学校公開の日を実施する。 (下位組織レベル) ホームページの更新回数を増やす。	評価指標 「ホームページは本校を理解してもらうのに役立つ」と答えた保護者が70%以上。	評価指標による達成度 「ホームページは本校を理解してもらうのに役立つ」と答えた保護者82%(+1p)	総合評価 A (所見) 年度当初、新規赴任者を対象にホームページ講習会を実施し、ほとんどの教職員が更新技術を身につけた。速報性と更新回数を高めることを学校の方針とし、部活動の活躍等を中心に実践できた。ホームページや各種の公開行事は、本校を理解する上でどれも高い支持を得ており、当日のアンケート調査や感想にも、肯定的な意見が多かった。また中学生体験入学参加者の97%が「参加して良かった」と回答するなど、すべての公開行事が大きな成果を挙げた。	①学校を知りたい、見たい、良くしたいは、保護者や地域の方々の願いであり、今後とも、ホームページの頻繁な更新や、学校教育活動に支障がない範囲内での学校公開に積極的であってほしい。	①全ての教職員がホームページ更新技術を身につけ、各担当がリアルタイムに、有益な情報を発信するよう学校全体で取り組む。 ②ホームページの統括責任者が中心となり、より見やすく、よりわかりやすいコンテンツとなるよう工夫・改善に取り組む。 ③志願者増は、ここ数年の本校の課題であり、進路決定に影響力の大きい中学生体験入学の参加者が増えるよう、内容の一層の工夫充実を図るとともに、広報活動にも力を入れる。
	中学生体験入学や学校公開の日の実施。 城内祭の公開。	「ホームページの更新にすべての教員が関わり、少なくとも週に一回は更新する。」 「中学生体験入学や学校公開の日は本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者・教職員が70%以上。 「文化祭の公開は本校を理解してもらうのに役立つ」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	多くの教員がホームページの更新ができるようになり、学校全体として平均週一回程度は更新することができた。 「中学生体験入学や学校公開の日は本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者84%(+8p)、教職員83%(+12p) 「文化祭の公開は本校を理解してもらうのに役立つ」と答えた生徒79%(±0p)、保護者92%(-3p)、教職員95%(+12p)			
		活動計画 ①ホームページを随時更新する。 ②中学生体験入学を実施する。 ③「学校公開の日」を実施する。 ④文化祭を公開する。 ⑤スクールガイドを発行する。	活動計画の実施状況 ①ホームページへの年間アクセス数は214,354回、総アクセス数928,409回('04/10/20～'13/2/28) ②中学生体験入学への参加者266名。 ③学校公開の日への参加者603名。 ④文化祭を公開し、1823名が来校した。 ⑤スクールガイドを改訂した。			
学校運営体制の充実	(全校レベル) 月例運営委員会や職員会議を活性化させるとともにPTA活動の充実を図る。 (下位組織レベル) 月例運営委員会で学校生活や教育活動全般を点検するとともに、各学年、各課などにおいて課題解決を図る。	評価指標 「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒・保護者が70%以上	評価指標による達成度 「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒80%(+2p)、保護者85%(+1p)	総合評価 A (所見) すべての項目で、昨年度と同様、非常に高いレベルで評価指数を上回っており、高く評価できる。教育活動全般の「満足度の割合」は、微上昇したものの、豊かな教育活動の「実施の割合」と比べて低く、今後とも、近づけていくことが課題である。また、PTA活動は非常に活発であり、学校に対しても協力的で、支援をいただいた。	①次年度で中高一貫教育校となり10年を迎えるが、これまでの教育活動を検証し、生徒たちが行きたい・学びたい中学校・高等学校となるよう、一層の魅力化と信頼される学校づくりに努めてほしい。 ②運営委員会が、校長の職務の円滑な執行を補助する機関として機能するよう、議題の精選と活発な協議の場となるよう工夫する。 ③生徒を中心に据えた教育活動が展開できるよう、学校とPTAが互いに理解を深め一層の協力体制を築く。	
		「勉強・部活動・学校行事など豊かな教育活動が行われている」と答えた生徒・保護者が70%以上。 「PTA活動や学年部会は活発である」と答えた保護者・教職員が70%以上	「勉強・部活動・学校行事など豊かな教育活動が行われている」と答えた生徒90%(±0p)、保護者94%(-1p) 「PTA活動や学年部会は活発である」と答えた保護者86%(+2p)、教職員93%(-1p)			
		活動計画 ①運営委員会を毎月1回開催する。 ②定期的に学年会を開催する。 ③中高合同PTA役員会を年5回開催し課題解決に取り組む。	活動計画の実施状況 ①運営委員会を毎月1回実施し、各課題について検討・協議した。(年12回開催) ②学校行事やLHRの事前打ち合わせ、生徒理解など、必要に応じて学年会を開催した。 ③中高合同PTA役員会が5回開催され、活発な議論がなされた。			